



# 肥のあけぼの



販売期間

10月中旬

▼  
11月上旬

『肥のあけぼの』は、昭和58年から研究が続けられ、平成7年に品種登録された熊本県のオリジナル品種。「果皮も中身も、独特の“橙色”を持っている早生です」と話すのは「熊本県果樹研究会」の上杉茂雄会長です。“肥”シリーズの一品種として、10月中旬から11月上旬にかけて約2000tを販売しています。

## 独特の橙色が、 パツと目を引く

「果皮が薄くて、食べやすい」

『肥のさきがけ』を追うようにして、10月中旬から販売が始まる『肥のあけぼの』。楠本早生と、甘夏の川野なつだいたいとの交配で育成された早生品種で、平成10年産から販売を始めました。大きな特徴は、他品種とは一目で違いが分かる赤みの強い橙色をした果皮と、ヘソ(果頂部)がポコンと突き出た外観です。また、果皮は大変薄いため剥きやすく、橙色の果肉を包むじょうのう膜(果実袋)も軟らか。食べやすいだけでなく、食味もいと市場でも好評です。

出荷にあたっては、1玉ずつ光センサーで徹底したチェックを行っています。『肥のあけぼの』の名称で販売できるのは、糖度11度以上、クエン酸1・0%以下の基準をクリアした果実のみ。たっぷりの果汁と強い甘味を満喫していただけはらずです。

